

## 第7エリア学力向上研究委員会の取組

# 小中連携に特化した授業改善



苫小牧市教育委員会指導室

第7エリア（苫小牧東中・苫小牧東小・若草小）では、目指す子供像を「気付き、考え、主体的に学ぶ児童生徒」と設定し、小中連携に係る取組を推進しております。その取組の一つとして、エリアの課題を分析し、目指す子供像にせまるために、相互乗り入れ指導の充実を図っています。

### 取組の内容

- ① 夏休み学習サポートにおける相互乗り入れ指導（国語科、外国語活動、算数・数学科）
- ② 小学校の夏休み学習サポートにおける中学生による支援活動

#### 【中学校教員の乗り入れによる国語科、外国語学習会】



苫小牧市統一学力検査等の課題を受けて、国語科は文法、外国語活動はフォニックス・ローマ字学習などの内容を、小学5、6年生を対象に中学校教員が指導しました。

中学校教員の専門性を生かした指導により、児童が「文の5つの成分を理解できた」、「英語がおもしろいと思った」といった感想を述べるなど、新たな気付きや学習意欲の向上につながりました。

#### 【小学校教員の乗り入れによる算数・数学科学び直し講座】



数学科に苦手意識を感じている中学1年生を対象に、4名の小学校教員が指導しました。当該学年が小学生の際に定着に課題のあった小数や分数の計算と、中学校入学後最初の単元である正負の数の復習を行いました。

生徒にとっては、何ができて、何が課題なのかに気付くなど自己認知する機会になり、小学校教員にとっては、生徒がつまずきやすいところを経験的に学ぶ機会となりました。

#### 【小学校の夏休みの学習サポートにおける中学生による支援活動】



苫小牧東小学校、若草小学校の学習サポートに、中学2年生16名が参加し、採点をしたり、わからない問題や間違えた問題を小学生に教えたりしました。

小学生にとっては、わからない問題をすぐに聞いて解決することができ、学習意欲の向上につながっていました。中学生にとっては、どのように説明すればわかってもらえるかを考え、実践するよい機会となりました。